

「殺生石」物語考

物語の概略⑥

白面金毛九尾の狐の屍は甕に納められ、太公望らによつて地中深く埋められたが、その魂魄はやがて、天竺(インド)に渡る。天竺には五つの大国があり、中天竺の摩竭国の皇太子、薩婆悉達は、十九歳で王宮を去り、苦行の後悟りを開いて釈迦牟尼仏と称した。

南天竺の耶羯国は、屯天沙朗大王が治め、その皇太子斑足太子は文学のみならず、管弦の道にも秀で、鬚篋の妙手であった。ある晩秋、太子は、長栄館という樓閣で、近臣らと管弦を楽しみ鬚篋を吹いていた。すると、それに唱和するように、女の美しく歌う声が聞こえてきた。斑足太子に命ぜられた家来は、紅葉の森の中に二人の美女を見つけた。

女は、三十二骨の扇を持ち、鶴篋裘(鶴の羽で編んだ着物)を着し、姿は楊柳のごとく、容顔は美麗にして丹花の唇を持つた美人であった。斑足太子は一目で、女の美しさの虜になり寝殿



に入らせ寵愛し、華陽夫人と呼ばせた。程なくして、太子は姫酒に溺れ、国務を怠り、朝廷の政は次第に荒んだ。父王や、釈迦に帰依していた伯父・弗沙大王の説法も、太子はすでに聞く耳を持たない。斑足太子は、殺伐を好む華陽夫人の意に添うため、自分も又殺伐を好んだ。諫める臣下があれば、その言葉の無礼を罪として即座に斬害せしめた。第一の忠臣葉刀は、「斬られるのは覚悟の上だ」と、大音声で太子を諫めながら、役人に斬られる。まして、下民などは聊かのことで首を刎ねられた。太子は、その様を華陽夫人に見せて喜ばせた。

筆者 前那須歴史探訪館 館長

齊藤 宏壽 先生(湯本在住)

今月のひとこと

網膜に残る光は爪のよう
しばらくたちて届く雷鳴

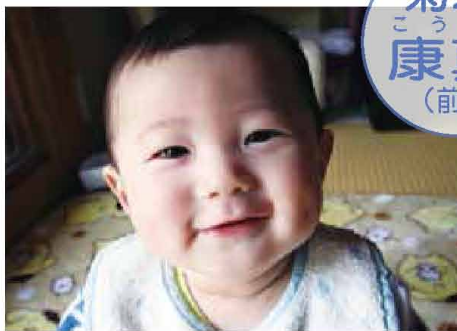
かつこう

県都の役所に勤めている姪は戸籍事務を担当していて、七夕になると何組ものカップルが婚姻届を提出し、窓口が非常に混雑すると言っていた。七夕のほかにも人気の入籍日があるようで、これも姪から聞いて初めて知ったが、年に5〜6日ある貴重な開運日と言われている「天赦日」なる日が大安に重なる、役所の窓

口職員は受け付け業務とその処理に終日追われるという。夫婦の記念となる日は、祝福する余裕もない1日となるらしい▼町は7月から、住民生活課の窓口業務の民間委託を導入した。これまで町職員が行っていた戸籍や住民票などの発行業務を、研修を受けた委託業者の社員が住民生活課の窓口で行う。配置人数もこれまでより増員され、来庁者を待たせることも少なくなるだろう。複雑な手続きや専門性が必要となる

相談業務などは引き続き町職員が対応するので、住民サービスの向上が期待できる▼催涙雨が降ると牽牛と織女は再開が果たせないといわれているが、カササギの群れが天の川の中に翼を連ねて橋となり、二人を会わせてくれるという説もある。せつかくの記念日を役所の窓口でいつまでも待たせてしまうのではなく、カササギのように、二人の門出を祝福できる余裕ある窓口を目指していく。

こんにちは 赤ちゃん



菊地 康真くん
(前原)

平成29年 10月15日生

父 孝行さん 母 真利さん

康真くんは…

毎日この笑顔に癒されています♡元気にすくすく成長してね♡

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口 ・世帯数 10,263世帯 (-7)
・人口 25,398人 (-39)
(6月1日現在・住民基本台帳)
()の数字は前月比 男 12,597人(-18) 女 12,801人(-21)

あなたの「声」を聞かせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。